

国際生命情報科学会 (ISLIS) 創立 25 周年記念

第 49 回生命情報科学シンポジウム 「未知なる科学への挑戦 VII」

2020 年 3 月 14・15 日(土・日) 東邦大学 医学部 東京都大田区大森

講演・発表等 要旨・説明文

理事長講演

国際生命情報科学会 (ISLIS) 創立 25 周年と
世界一の「潜在能力科学研究所」創立を目指して山本 幹男 博士(医学), 博士(工学)
(Mikio YAMAMOTO, Ph.D.)国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事長・編集委員長¹
国際総合研究機構 (IRI) 理事長², 「潜在能力科学研究所」 創立責任者²

要旨: 国際生命情報科学会 (ISLIS) は 2020 年に創立 25 周年を迎え, 更に同年夏には第 50 回生命情報科学シンポジウムを主催するので, 2020 年は飛躍のための記念行事年間として, 2 回の同シンポジウムの主催と単行本「潜在能力の科学 II」の刊行を行う。また, ISLIS は, その兄弟組織でこの分野の幾多の研究成果を挙げてきた国際総合研究機構 (IRI) と共に, (仮称) IRI - 「潜在能力科学研究所」を創立し, この分野の世界一の研究所に育てる計画なので, 記念行事と共に, 企画, 構想, 研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい。このために現本部にスペースを既に借増し, IRI スタッフの増員も進めている。また, 現本部と同じ JR 総武線 稲毛駅 徒歩 5 分に確保済みの土地に, 2020 年着工で新本部ビルを建設する。ISLIS の設立趣意は, 物質中心の科学技術から, 心や精神を含んだ 21 世紀の科学技術へのパラダイム・シフト (枠組革新) を通じ, 真理の追求と共に, 人間の「潜在能力」の開花により, 健康, 福祉, 教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ, 自然と調和した平和な世界創りに寄与する事である。ISLIS は 1995 年の創立来 24 年半, 現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議な心や精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング, 気功, 潜在能力, 超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た。この間に生命情報科学シンポジウムを, 海外での開催や 14 回の合宿形式を含め 49 回主催し, 英文と和訳付の国際学会誌 *Journal of International Society of Life Information Science (J.Intl.Soc.Life Info.Sci. or Journal of ISLIS)* を年 2 号定期刊行し, 総計 6,000 頁以上の学術論文と発表を掲載し続けてきた。また 2002 年に単行本「潜在能力の科学」も出版した。この間に, 不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた。しかし, その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない。本学会は現在, 世界の 11 カ所に情報センターを, 15 カ国以上に約 190 人の会員を, 擁している。今回の第 49 回生命情報科学シンポジウムは, 「未知なる科学への挑戦 VII」を主テーマとして掲げ, 2020 年 3 月 14・15 日(土・日)に大森の東邦大学医学部にて主催する。次回第 50 回は合宿形式で企画中である。これらの場でも, 上記「潜在能力科学研究所」創りも皆で大いに議論してもらいたい。

キーワード: 国際生命情報科学会, ISLIS, 潜在能力科学研究所, 国際総合研究機構, IRI, 科学, 不思議, 世界像, 世界観, 潜在能力, 催眠, 心, 精神, 脳, スピリチュアル, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 精神神経免疫, 超常現象, 超能力, 超心理, 気功, ヨーガ, 瞑想, 幸福

1, 2 国際総合研究機構 (IRI) 内 〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4 階

電話: 043-255-5481, Fax: 043-255-5482

HP: <http://www.islis.a-iri.org> E-mail: iri@a-iri.org HP: <http://www.a-iri.org>山本幹男 直通: E-mail: nsnpoi@gmail.com Mikio Yamamoto 携帯: 090-9232-9542 Fax: 043-255-9143

特別講演

令和時代における破壊的創造“現代未病”の活用



福生 吉裕

一般社団法人 日本未病総合研究所 (日本、東京)

要旨： 令和に入り、平成時代に生じた人口減少による社会保障システムの“ゆがみ”が表面化しつつある。地域の過疎化、年金問題、とりわけ医療保障制度の継続は困難な状況であることが露呈されてきた。そこでパラダイムシフトの切り札として“未病”の活用が求められるようになってきた。理由は身体状態は「健康か病気か」の二つの概念しかないとするこれまでの二元論から脱却して、第三の心身状態としての“未病”という状態の創造である。そして2017年2月に未病は閣議決定された。発想の転換であった。これより“古典未病”から“現代未病”への意識改革が始った。

現代未病の特色は古典未病の主体が名医であるのに対し、現代未病の主体は一般人であり、自助で改善できる身体状態（未病）の範囲を明確化（科学化）し、その対応法を講じることである。そしてこの現代未病の推進母体として“マイクロ未病学”と“マクロ未病学”があり、その融合が重要であることについて述べる。まず「マイクロ未病学」は生体細胞活動を基本にして、“生体感知機能が非検出の異常を発見する”ところから始まる。この方法論が“マイクロ未病学”であり、個人の身体状態を中心に未病状態のチェックをし、そして自助での改善を行うのを目的としている。一方「マクロ未病学」はマイクロ未病学で得たエビデンスを実社会で実践しやすいようにするシステム作りであり、制度設計や未病産業の振興などの社会科学をいう。

マイクロ未病学による未病の分類としては①「感じない未病：自覚症状がないが検査では異常」（西洋医学的未病）と②「感じる未病：何らかの軽微な自覚症状はあるが検査では異常が見られない」状態（東洋医学的未病）の二つに分けられる。

ISLIS研究と未病学はオーバラップするところが多いと思われる。ISLISが得意とする微細検査は未病学に応用が可能であり、あらたな境地の開拓が出来ると期待される。

Keywords: 現代未病、古典未病、マイクロ未病学、マクロ未病学、医療保障制度、少子高齢社会

連絡先: 福生吉裕、E-mail: mibyou.fukuo@gmail.com 日本未病総合研究所 電話：03-5656-6722 URL: www.mibyou-union.org

会長講演

脳卒中後のうつとアパシー ～その病態と対応について～

木村 真人

日本医科大学千葉北総病院・メンタルヘルス科 (日本、千葉)

要旨： 我が国における脳卒中の死亡率は減少傾向にあるが、後遺症を抱えた脳卒中の有病者数は380万人にも達することが推測されている。脳卒中後うつ病（post-stroke depression: PSD）は、脳卒中患者の約3割に出現するが、適切な診断と治療によって、ADLや認知機能の改善だけでなく、生命予後までも改善することが明らかにされている。また、脳卒中後には、うつと混同されやすい病態として、自発性の低下を主体としたアパシーを呈することも少なくない。うつが自己の状態に悩むのに対して、アパシーは自己の状態に無関心で悩まないことが鑑別点として重要である。PSDに対する抗うつ薬治療としてはSSRI、SNRI、NaSSAなどの忍容性に優れた薬剤が第一選択薬となる。アパシーが目立つときには、SSRIなどの抗うつ薬の効果は乏しく、ドパミン作動薬やアセチルコリン作動薬が有効の場合がある。リハビリテーションでは、うつ状態が重度の場合には休養や、軽い負荷の他動的運動療法を考慮し、軽度から中程度の場合には、ある程度の強度を持った有酸素運動が有効である。アパシーが目立つ場合には、休養よりもレクリエーションを含めたリハビリの工夫や行動療法的アプローチが必要になる。脳卒中治療においては、うつやアパシーへの対応を含めた総合的医療が必要であり、精神科を含めた各診療科との連携や多職種によるチーム介入が課題である。

Keywords: 脳卒中後うつ病、アパシー、診断、治療、リハビリテーション

連絡先：木村真人、270-1694 千葉県印西市鎌苅1715 日本医科大学千葉北総病院・メンタルヘルス科
電話 0476-99-1111 FAX 0476-99-1926 kimu88@nms.ac.jp

大会長講演

未病対策と温泉の医学的効用

杉森 賢司

東邦大学医学部(日本、東京)

要旨: 古くから温泉の医学的活用は重要視されてきたが、西洋医学の発展と共に衰退し、現在では娯楽の一部と化している。しかし、近年では未病対策としての温泉の価値が再評価され、その効果や活用法が示されている。

連絡先: 杉森賢司 kensan@med.toho-u.ac.jp 東邦大学医学部 〒143-8540 東京都大田区大森西 5-21-16 電話 03-3762-4151 FAX 03-3761-0546

教育講演

「水の情報記憶」と「形態場」

根本 泰行

IHM 総合研究所・顧問 (日本、東京)

要旨: 故・江本勝博士は、1999年に水の氷結結晶写真集『水からの伝言』を出版した。『水からの伝言』の真意は、水の結晶写真を通じて、一般の人々に「水は情報を記憶する」ということ、さらには「意識によって人は物質世界に影響を与えることができる」ということを伝えることにあった。従来科学の枠組みにおいては、「水の情報記憶」について、なかなか認められなかったために、「『水からの伝言』は非科学的である」との批判を受けてきたものの、『水からの伝言』は様々な言語に翻訳されて世界各国に伝わっていき、多くの一般の人々が結晶写真について知ることとなった。しかしながら、『水からの伝言』が世界中に広まっていったことに呼応するように、過去10年ほどの間に、世界のトップレベルの科学者たちから、「水は情報を記憶する」ということを示唆する—もしくは完全に証明する—証拠が提示されてきている。

ルパート・シェルドレイク博士の「形態場」仮説によれば、「多くの人々が何らかの事柄について学習すると、その効果は、形態共鳴を通して、それらの人々と直接的な接触のない人々に対しても、広がっていく」と考えられる。『水からの伝言』を知ることによって多くの人々が水の結晶写真を認知したことにより、「水は情報を記憶する」という可能性が人類の「形態場」にアップロードされ、さらには「形態共鳴」を通じて、人類全体の意識に広まった。最新の水の科学の世界において、「水は情報を記憶する」ということが実験的に示唆もしくは証明されるまでに至った理由として、そのような作用が働いたのではないか。その可能性について、議論する。

Keywords: 水、水からの伝言、水の情報記憶、形態場、形態共鳴

連絡先: 根本泰行 yasuyuki.nemoto@hado.com 103-0004 東京都中央区東日本橋2-6-11 NSビル2階
IHM総合研究所 電話03-3863-0211 FAX 03-3866-5353

講演

ピラミッド型構造物の知られざる機能

高木 治¹、坂本 政道²、世一 秀雄¹、河野 貴美子¹、山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構(IRI) (日本、千葉)

² (株)アクアヴィジョン・アカデミー (日本、千葉)

要旨: 本研究迄、ピラミッド機能に関し、統計的有意で厳密な科学実験成果はほとんど無かった。本研究は、2007年

10月から現在まで、国際総合研究機構(International Research Institute: IRI)で継続され、研究目的は、ピラミッド型構造物 (pyramidal structure: PS) に関し、現代科学で未解明な機能 (いわゆる「ピラミッドパワー」) を解明すること。この存在を実証するため、PS 模型を作製し科学的に厳密な実験と解析を行った。食用キュウリ切片(Cucumis sativus ‘white spine type’) をバイオセンサ(biosensor: BS)として使用した。BS から放出されたガス濃度を解析し、影響(非接触効果)の有無の実証を試みた。ガス濃度を解析し、非接触効果を検出する方法は IRI で研究開発され、これまでにヒーラーによる非接触効果の検出や、ヒーラーの周囲に分布している生体場の検出等に成功している。現在迄に BS 作成の為 12,000 本以上のキュウリを使用し、ガス濃度データを 24,000 以上得た。PS 頂点に BS を設置して行う実験は、2 種類の実験条件に分類できた; (i) PS と「人間(被験者)が関連した」実験、(ii) PS と「人間(被験者)が関連しなかった」実験、である。条件(i)の実験結果から、人間を起源とする 2 つの未知のエネルギー (フォースタイプ I, II) が関連していることが示唆されたが、関連したフォースタイプによって実験結果が異なった; (i-1) PS と「人間の無意識 (フォースタイプ I)」が関連した場合と、(i-2) PS と「PS 内で瞑想している人間の影響 (フォースタイプ II)」が関連した場合とでは、PS が異なる反応を示したのである。条件(ii)の実験は、少なくとも 20 日間以上、被験者が PS 内に入らなかった状況で行なわれた。解析の結果、実験条件(i-1)、(i-2)及び(ii)のどの場合でも、PS の未知なる機能 (「ピラミッドパワー」) の存在を高い統計精度で実証できた。(i-1)の場合、6 km 以上離れた人間(被験者)の睡眠状態から覚醒状態までの、無意識の変化に対応したと考えられる非接触効果が検出され、長距離非接触効果が発見された(1%有意)。(i-2)の場合、瞑想後、十数日間にわたり非接触効果が検出され、遅延を伴った短距離非接触効果が発見された ($p=3.5 \times 10^{-6}$; ウェルチの両側 t 検定、これ以降の p 値も同様)。この遅延を伴った非接触効果の実験結果は、制御理論における過渡応答現象のモデルから計算された理論曲線で、非常に良く近似できた。条件(ii)の実験結果から、PS が潜在的に持っている力による非接触効果が検出 ($p=6.0 \times 10^{-3}$)され、その潜在力は季節によって変化し、夏期には非接触効果が大きく、冬期には非接触効果が小さくなることが発見された。また、PS 頂点に 2 段に重ねて置かれた BS の、上段と下段に対する PS の潜在力の影響が異なることが発見された ($p=4.0 \times 10^{-7}$)。これらの結果は、厳密な科学的な実験と解析で、「ピラミッドパワー」が実証された世界最初の研究成果である。この成果が、科学の新しい一分野と幅広い応用分野を切り開くことが予想される。

ピラミッド, 潜在力, 瞑想, 無意識, 非接触効果, 遅延, バイオセンサ, キュウリ, ガス, サイ指数

代表著者連絡先: 高木 治 takagi@a-iri.org 〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ヌウキビル 4FA 電話 043-255-548

研究発表

ピラミッド型構造物の潜在的な力の研究 II

高木 治¹、坂本 政道²、世一 秀雄¹、河野 貴美子¹、山本 幹男¹

¹ 国際総合研究機構 (IRI) (日本、千葉)

² ㈱アクアヴィジョン・アカデミー (日本、千葉)

要旨: 1930 年代後半、フランス人の Bovis がギザの大ピラミッド内で、自然にミイラ化した小動物を見つけたことが発端となり、いわゆる「ピラミッドパワー」の研究が始まった。我々は 2007 年 10 月から、ピラミッド型構造物 (pyramidal structure: PS) の未知なる機能を解明するため、バイオセンサ (食用キュウリ切片) を使用した科学的に厳密な実験を続けている。2019 年 8 月の本学会において、PS にはバイオセンサに影響 (非接触効果) を与える潜在的な力が存在 (1%有意) することを発表した。PS の潜在力の有無を解明するため、「PS と人間が関連しなかった」という条件の下で実験が行なわれた。バイオセンサに対する非接触効果の大きさを表す指標として、サイ指数 (Ψ) が採用された。今回、我々は PS 頂点と較正基準点に、2 段に重ねて置かれたバイオセンサの上段と下段で、非接触効果の影響に差異が有るか無いかという視点で解析を行った。これまで、非接触効果の大きさは較正サイ指数 $\Psi_{(E-CAL)}$ で表していた。しかし、バイオセンサを 2 段に重ねた時の上下の差異に関しても較正する必要が出てきた。従って、新たな較正サイ指数 ($\Psi_{(E-CAL) Layer}$) を導入した。

$$\Psi_1=100\ln(G_{E1}/G_{C1}), \Psi_2=100\ln(G_{E2}/G_{C2}), \Psi_3=100\ln(G_{E3}/G_{C3}), \Psi_4=100\ln(G_{E4}/G_{C4}). \quad (1)$$

$$\Psi_{1(E-CAL)}=\Psi_1-(\Psi_3+\Psi_4)/2, \Psi_{2(E-CAL)}=\Psi_2-(\Psi_3+\Psi_4)/2, \Psi_{3(C-CAL)}=\Psi_3-(\Psi_3+\Psi_4)/2, \Psi_{4(C-CAL)}=\Psi_4-(\Psi_3+\Psi_4)/2. \quad (2)$$

$$\Psi_{1(E-CAL) Layer1}=\Psi_{1(E-CAL)}-\Psi_{3(C-CAL)}=\Psi_1-\Psi_3, \Psi_{2(E-CAL) Layer2}=\Psi_{2(E-CAL)}-\Psi_{4(C-CAL)}=\Psi_2-\Psi_4. \quad (3)$$

(1)式の G_E, G_C は、同じ切断面を持ったキュウリ切片 (ペア) のガス濃度。E が実験試料、C が対照試料を表している。実験試料 (G_{E1}, G_{E2}) は PS 頂点、実験試料 (G_{E3}, G_{E4}) 及び対照試料 (G_{C1}, G_{C2}), (G_{C3}, G_{C4}) は較正基準点に置かれた。添字の数字が大きい方が上段であった。 $\Psi_1 \sim \Psi_4$ が較正前のサイ指数。(2)式の $\Psi_{1(E-CAL)} \sim \Psi_{4(C-CAL)}$ が較正サイ指数。(3)式

の $\Psi_{1(E-CAL) Layer1}$ と $\Psi_{2(E-CAL) Layer2}$ は,PS 頂点に 2 段に重ねて置かれたバイオセンサに対する,上下の違いを校正したサイ指数である。解析の結果,PS の潜在力の特性に関する新たな情報を得ることができた。(i)下段のペアから計算された(Ψ_1, Ψ_3)と,上段のペアから計算された(Ψ_2, Ψ_4)とを比較した。その結果, $\Psi_1 < \Psi_2$ 及び $\Psi_3 > \Psi_4$ という結果を得た。上段と下段との比較で全く逆の結果となった。(ii) $\Psi_{1(E-CAL) Layer1} < \Psi_{2(E-CAL) Layer2}$ の結果が得られた ($p=4.0 \times 10^{-7}$, ウェルチの両側 t 検定)。これらの結果より,PS 頂点での PS の潜在力は,下段に比べ上段のバイオセンサに対する非接触効果が大きくなることが判明した。また本発表では,PS 頂点付近の潜在力の特性に関して,実験結果を説明することが可能な一つのモデルを提案する予定である。

キーワード：ピラミッド, 潜在力, 非接触効果, バイオセンサ, キュウリ, ガス, サイ指数

代表著者連絡先：電子メール：takagi@a-iri.org 〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 4FA 電話 043-255-548

研究発表

指回し体操を用いる健康法の多様な効果

栗田 昌裕

群馬パース大学 (日本, 高崎市)

要旨：指回し体操は、空間認知兼姿勢制御運動を特徴とする簡便な健康法として筆者が創案した h 方法で、1992 年に拙著により一般社会に紹介された。それが生体に及ぼす効果は多彩であり、運動系、自律系、感情・情緒系、感覚系、認知・言語系、代謝系に亘る。運動系では柔軟度や筋力に影響があり、自律系では皮膚血流や瞳孔対光反射に影響が生じ、感情・情緒では主観的な元気が増し、脳波にも影響が観察され、認知・言語系では、迷路抜け速度、計算速度、読書速度、数字記憶力、数字認知速度などが改善し、代謝系では体重変動が生ずる。また、交番磁場に対する感受性の亢進も生ずることが分かった。このように多彩な影響が生ずる理由は、指が知的機能の拠点であり、空間認知を支える視覚と連動しながら、姿勢制御系とも密接に関わり、しかも食べる動作を通じて内臓諸機能とも連携しているからである。指回し体操を活用した指回し健康法は、心身を総合的に高めて、健康を促進する上で有用と思われる。特に高齢者の健康寿命を促進する手法としても考慮に値する。

キーワード：指回し体操、SRS 能力開発法、抗加齢医学、健康寿命

栗田昌裕, E-mail m-kurita@suite.plala.or.jp 群馬県高崎市問屋町 1-7-1 電話 027-365-3366, Fax.027-365-3367

研究発表

能力開発のための舌の運動「Happy Tongue Exercise (福舌法)」の提案 (2) -抗加齢、認知症、摂食嚥下障害、発達障害への効果も目指して-

栗田昌裕

群馬パース大学 (日本, 高崎市)

要旨：2018 年 3 月の ISLIS のシンポジウムでは「能力開発のための舌の運動『Happy Tongue Exercise』の提案---抗加齢効果と、認知症、誤嚥、発達障害への効果も目指して---」という演題で発表を行った(文献 1)。そこで示された内容を舌運動の第一の体系と呼ぶ。その体系は 12 の方法からなり、それらは筆者の提唱する SRS 能力開発法 (Super-Reading System) の脳幹訓練の一部となっている舌運動を展開したものである。今回は舌の運動の第二の体系として、より詳細なプログラムを提案する。SRS には 12 か月に亘って指導される 12 の健康法の体系が存在する。それらは、1. 歩行健康法、2. 共鳴健康法、3. 思念健康法、4. 回転健康法、5. 重力場健康法、6. 伸展健康法、7. 均衡健康法、8. 叩打健康法、9. 振動健康法、10. 押圧健康法、11. 摩擦健康法、12. 「まわひねりき」健康法、である。本論文では、これらの 12 の健康法を舌運動と連携させる新たな体系を提案する。これを舌運動の第二の体系と呼ぶ。それを実践する課程では、舌の活用が「言語系、感覚系、感情系、自律系、運動系、潜在系」という人間の 6 大システムと連携して果たす役割と意義が認識できるであろう。また、舌運動を通して、発達障害の改善から健康寿命の延伸までも含めて、より健全に、より幸福に生きる道に目覚めることが期待される。

キーワード：SRS 能力開発法、舌運動、抗加齢医学、誤嚥、嚥下障害、認知障害、発達障害、夜間無呼吸、口腔衛生

栗田昌裕, E-mail m-kurita@suite.plala.or.jp 群馬県高崎市問屋町 1-7-1 電話 027-365-3366, Fax.027-365-3367

研究発表

舌喉頭矯正術による成人の睡眠改善評価

山本 伊佐夫¹、篠田 健一¹、中川 貴美子¹、大平 寛¹、
鎌倉 尚史¹、山田 良広¹、長谷川 巖¹、向井 将²
1 神奈川歯科大学大学院災害医療・社会歯科学講座 (日本、神奈川県)
2 向井診療所 (日本、神奈川県)

要旨: 舌喉頭偏位症 (ADEL) は、舌小帯の有無にかかわらず舌および喉頭蓋・喉頭の前上方への偏位している状態で、この状態は上気道の抵抗が増加させるだけではなく、呼吸も抑制している。舌小帯およびオトガイ舌筋を一部切離する舌喉頭矯正術 (CGL) は、舌および喉頭蓋・喉頭が後下方に移動し喉頭が直立するため呼吸障害が改善される。

睡眠障害を主訴とし CGL をして来院した成人 20 名を対象に、汎用されている睡眠評価尺度質問紙であるエップワース眠気尺度 (ESS) と睡眠の質を評価するピッツバーグ睡眠質問表 (PSQI) および高感度の加速度センサーが内蔵された腕時計型アクチグラフを用いて、術前と術後約 1 ヶ月に測定し、CGL による睡眠改善効果について検討した。日中の眠気および睡眠の質の改善が確認された。アクチグラフの結果、覚醒中の睡眠時間、睡眠効率、入眠後の覚醒時間、最長の継続睡眠時間に有意な改善がみられた。CGL 後は、睡眠中の呼吸が改善することにより、中途覚醒も減少したため睡眠効率が上昇し、昼間の眠気も減少したものと考えられた。睡眠障害の新たな治療法として CGL の有効性が示唆された。

Keywords: 舌喉頭偏位症、舌喉頭矯正術、アクチグラフ、睡眠障害

著者連絡先: 山本 伊佐夫 E-mail: yamamoto@kdu.ac.jp 〒238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町 82
神奈川歯科大学大学院災害医療・社会歯科学講座 Tel & Fax 046-822-8863

研究発表

鹿との共生を目指して

橋爪 秀一
Idea-Creating Lab (日本、横浜)

要旨: 古くから、日本人は鹿に対して可愛らしい、高貴である等の好印象を持っており、神使或は神獣として崇めてきた。しかし、現在、毎年約 60 万頭の鹿が害獣として駆除されており、駆除された鹿の大部分は、ゴミとして廃棄されているのが現状である。我々は、鹿との共生を目指すためにも、駆除された鹿を有効資源として利用すべきと考えており、鹿肉、鹿皮や鹿茸の天然資源としての価値を模索している。

今回は、ニュージーランド、台湾、モンゴル、スコットランド及びドイツにおける鹿との付き合い方と鹿の資源としての利用法について報告し、鹿との共生方法について考察したい。

キーワード: 鹿、共生、獣害、天然資源

橋爪秀一, hashizume.shu@nifty.com 〒236-0005 横浜市金沢区並木 3-7-4-1303 電話・Fax. 045-783-2510

研究発表

色刺激に対する生体の経時的変化の研究

足達 義則¹、笹山 雪子²
1 中部大学 (春日井、日本) 2 豊橋創造大学 (豊橋、日本)

要旨: 人にとって適度なストレスは作業の効率を上げると言われるが、許容できるストレス強度はストレスの種類や個人のストレス耐性に依存していると言われている。ストレスの病気原因説が唱えられて久しいが、様々なストレスから逃れられない現代社会においては、いかにストレスとうまく付き合うかが健康な生活を送

るうえで非常に大きな課題と言える。

本研究では4種類の色に対する生体反応を、指尖脈波を通して経時的に検討することで、ストレスの生体に及ぼす影響が個性ある被験者でどのような経時的変化となって表れるかを、R-R 間隔のウェーブレット解析によって検討した。

Keyword: 色、指尖脈波、LF/HF、ウェーブレット解析、経時的変化

足達義則, 中部大学経営情報学部, 487-8501 春日井市松本町 1200, 電話 0568-51-1111 FAX 0568-52-1505

研究発表

ホリスティック看護とは

中ルミ¹、廣川暁子²

¹ 国際ヒーリング看護協会 (日本、千葉)

株式会社ホリスティックメディカル ルミナスの和訪問看護ステーション (日本、千葉)

要旨: アメリカホリスティック看護協会 (AHNA) が定義するホリスティック看護とは「全人的にとらえた人を癒すことを目的とする看護行為の全て」を指している。「その看護行為は、人を全人的にとらえること、すなわち、人を身体、心、感情、精神、霊性、社会、文化、人との相互関係、状況背景および環境との相互関連性において存在する人間として認識すること」と定義している。(American Holistic Nurses' Association, 1998, Description of Holistic Nursing)

2020年現在、日本においては国際ヒーリング看護協会が10年前から発足し、ホリスティック看護の実践舞台として、ルミナスの和訪問看護ステーションを立ち上げ、普及に努めている。訪問看護における事例を含めて、国内外におけるホリスティック看護の現状をレポートする。

キーワード: ホリスティック看護、訪問看護、看護行為、癒し、全人的

連絡先: 中 ルミ E-mail: npo.ihan@live.jp 千葉県千葉氏稲毛区小仲台 6-2-7 富士ビル 501 号室 電話 043-306-7454

研究発表

訪問看護始業前に受けるハンドアロマセラピーマッサージ (アロマ M) のリラクゼーション効果および心身に与える影響の調査

廣川 暁子¹、いとう たけひこ²、中 ルミ¹

¹ ルミナスの和訪問看護ステーション (日本、千葉)

² 和光大学 (東京都)

要約: 人間には自然治癒力が備わっており、それを有効に発揮させるのが看護の役割の一つである。自然治癒力を発揮させるとされるリラクゼーション技法であるハンドアロママッサージ (以下アロマ M) によるリラクゼーション効果および心身に与える影響を調査するため、訪問看護始業前の訪問看護師同士でマッサージを行い、バイタルサインの変化と心理的リラクゼーション尺度 ERS の変化を測定した。

結果 1: アロマ M により脈拍と呼吸数が優位に減少しリラクゼーション反応が認められた。

結果 2: ERS においてポジティブな変化が認められた。

結果 3: ERS 下位尺度 (静穏感、解放感、爽快感、有能感) において有意差が認められた ($p < 0.05$)。

キーワード: ホリスティック看護、訪問看護、ハンドアロママッサージ、リラクゼーション反応、ERS (心理的リラクゼーション尺度)

廣川暁子、E-mail: hirokawa.luminous@gmail.com 千葉県千葉氏稲毛区小仲台 6-2-7 富士ビル 501 号室 電話 043-306-7454

臨床報告

統合医療 3 日断食、糖質制限食による 2 期肺癌（88 歳）におけるアディポネクチンと内臓脂肪の相関性、 ケトン体、セロトニン、腫瘍マーカー（CEA）、PET 検査、臨床報告

西本 真司

西本クリニック（日本、和歌山）

要旨：85歳の時4cm大左肺癌2期の診断を受けた症例が高齢のため三大療法をせずの治療の希望で来院。星状神経節ブロック（SGB）による視床下部の血流改善に加えて、食事療法としては糖質制限食に加えて各自の体質に合わせた、漢方薬、低分子化フコイダン（LMF）を中心とした統合医療を提案して治療を開始した。ケトン体、内臓脂肪、セロトニン、アディポネクチンデータ、腫瘍マーカーの変化を調査した。今回特に、3回のPET検査の画像変化と、2019年から低下しだしたCEAのデータ変化の経過報告、臨床改善の報告について若干の考察を加えて行う。

キーワード：SGB、低分子化フコイダン、アディポネクチン、CEA、セロトニン、ケトン体

連絡先: 西本真司 E-mail n2clinic@xpost.plala.or.jp 西本クリニック 640-8156 和歌山市七番丁16番地和一ビル2F
電話 073-428-1220 Fax 073-428-0949

症例報告

気エネルギー的対処法で改善した重症鬱病例の報告

橋本 和哉

医療法人 春鳳会 はしもと内科外科クリニック（日本、大阪）

要旨：家を出ることも困難で抗鬱剤の効果が少なかった重症鬱病患者さんに気エネルギー的な対処をしたところ著明な改善した症例を経験したので報告します。1例目は55才男性で2年前から会社での軋轢で鬱病を発症。気力低下のため会社も休みがちで最近まで会社出社も困難であった。2例目は72才女性で1年前から倦怠感が強く生きる気力がなく、鬱病と診断。2症例とも精神科にかかり種々の抗鬱薬、精神安定剤を投与されるも改善しなかった。気のチェックでは2症例とも身体に感情の蓄積と瘴気が充満していた。また住んでいる部屋で瘴気が充満していた。さらに1例目は家族まで次第に気分低下してきた。2種類のマイナスの気エネルギーを消すスプレーやオイルを使ったところ2週間で笑顔も出て来て外出も可能になった。鬱病に感情や瘴気の蓄積が関与する可能性について考察する。

キーワード：鬱病、気、感情、瘴気

連絡先: 橋本和哉 hashimoto.cl@gmail.com <http://www.hashimoto-cl.sakura.ne.jp/>
医療法人 春鳳会 はしもと内科外科クリニック 〒566-0024 大阪府摂津市正雀本町 2-5-23 電話 06-6382-2110 FAX 06-6319-3544

一般発表

自然治癒力活性化による遺伝的体質の改善

古川 彰久

(株)エイエムシイ、(有)イキイキライフ

要旨：私たちの命には、物質としての体だけでなく、その背後に目に見えない意識やエネルギーが存在しています。自然治癒力はそのエネルギーの現れともいえます。自然治癒力とはどのようなものなのか、私自身が薬や医師に依存せずに、自然治癒力の活性化により体質改善に挑戦してきた状況をご報告いたします。27才当時、私は乱視と近視で視力が0.1以下でしたが、自然治癒力を活性化すべく眼鏡を外した。56才当時0.5程度に回復し、日常生活は眼鏡なしでしたが、運転時には眼鏡使用。その後、波動の事業に関わり、波動機器の活用などにより、61歳にして眼鏡無しで運転免許証を取得した。これ迄の私の行動は結果として私の遺伝的体質に逆らうことだったので、その後、腰痛から始まり、関節

痛など、身体の変化が次々と発生した。それらを食生活や環境の改善により乗り越えてまいりました。最近の科学発表で遺伝子が変えられるとのことですが、まさに私の体験がその実現であります。

キーワード：自然治癒力、体質改善、波動機器、遺伝子

古川 彰久：info@iki2life.com (株) エイエムシー、(有) イキイキライフ代表取締役

一般発表

異言が誘発される仕組みへのアプローチ

朝日 舞

日本ライブセラピー協会 (日本、千葉)

要旨：宗教のかたちは様々だが、キリスト教の教えの中には「異言」の存在があり、祈りの一つだと考えられている。1990年の10月の事、異言を話せるようになったが、私はクリスチャンではなく、どちらかと言えば神道かも知れないが、突然の異言の発現には驚くばかりであった。きっかけとなったのは、或るテレビ番組による異言の場面を見ていた時であったが、医師である男性の話す異言(当時はムー大陸の言葉と言われていた)により、私の内側より何かのエネルギーが込み上げ、口から飛び出したのだった。その時の体感や感情の変化は得難い体験であった。この時より何時でも脳のスイッチングにより、異言発信のコントロールが可能となった。今回は異言の発現プロセスについて考察したい。

キーワード：異言、ムー大陸、祈り、キリスト教、脳のスイッチング

連絡先：朝日 舞 e-mail info@live-therapy.com 日本ライブセラピー協会 〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-24-27
TEL 047-427-3381 FAX 047-427-3188

セミナー

「アルティメットプログラム」の紹介と体験 I

多田 圭一

(株)MKコーポレーション 代表取締役 (東京 日本)

要旨：「アルティメットプログラム」とは「宇宙・人・魂・心・物質など、可視・不可視問わず、この世を形成する全てがエネルギーであり、相反する性質を持った『陽=プラス』『陰=マイナス』のエネルギーバランスが心身の健康のみならず、生き方も左右する」というエネルギーワーク共通の基本的な考えのもと、日本発祥のエネルギーワーク「タマラ◎」を採用して作られた独自のエネルギーワークプログラムである。「アルティメットプログラム」では、プラスとマイナス、それぞれのエネルギーそのものを用いて、ダイレクトに身体や脳、空間、土地などの調整を行い、エネルギーそのものを直接的に変化させることにより、心身の健康はもとより、生き方全般において本来の状態を取り戻し、望む方向への変化を加速できると考え、現在、科学的見地との合致も目指している。

キーワード：QOL、ストレスマネジメント、パフォーマンス、リカバリー、脳ケア、脳トレ、未病、予防、成長、成功、自己実現、免疫力、36.5度、集中力、能力開発、エネルギー、タマラエナジー◎、トレーニング

多田 圭一：info@mk-c.tokyo (株)MKコーポレーション 代表取締役 〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-16 銀座 Wall ビル UCF5 階
TEL: 03-6382-7580 FAX: 050-3588-1257 URL: https://www.mk-c.tokyo

ワークショップ

「アルティメットプログラム」の紹介と体験 II — 陽 (プラス) のエネルギーによる瞑想体験 —

多田 圭一

(株)MKコーポレーション 代表取締役 (東京 日本)

要旨：●陰（マイナス）エネルギーは、冷たい・重い・とどまる・鎮静 等

○陽（プラス）エネルギーは、温かい・軽い・流れる・活性 等

陰（マイナス）と陽（プラス）のエネルギーは相反する特徴を持っている。「アルティメット・プログラム」は、この両極のエネルギーを用途・作用に応じて使い分け、エネルギーワークを活用した個人や企業のコンサルティング、心身のメンテナンス、土地のクリーニング等、様々なコンテンツを生み出している。2015年プログラム始動から、2020年1月現在までプログラム利用者数は述べ約3,000人にのぼる。今回は、プラスエネルギーを使った瞑想を行う。プラスエネルギーで満たされた空間に身を置くことで、知識やテクニック、経験がなくても瞑想状態に入りやすくなる。プラスエネルギーの活性作用により様々なポジティブな変化が期待できる。

キーワード：QOL、ストレスマネジメント、パフォーマンス、リカバリー、脳ケア、脳トレ、未病、予防、成長、成功、自己実現、免疫力、36.5度、集中力、能力開発、エネルギー、タマラエナジー®、トレーニング

多田 圭一：info@mk-c.tokyo ㈱MK コーポレーション 代表取締役 〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-16 銀座 Wall ビル UCF5 階
TEL: 03-6382-7580 FAX: 050-3588-1257 URL: https://www.mk-c.tokyo

一般発表

命と魂のエネルギー -グリーンケアサイエンス（GCS療法®）についてII-

よしだひろこ¹、橋本幸雄²、勝浦友美³、宮崎ちずる⁴

¹HPS心理センター（福岡、日本） ²Miracle グリーンケア（京都、日本）

³ユーレカスペース（京都、日本） ⁴ホーリールーム（福岡、日本）

要旨：近年、よしだひろこがライフワークとして取り組んでいるグリーンケアサイエンス（GCS療法®）は、従来のグリーンケア（悲嘆をケアする）とは異なり、被験者自身が死者との会話を自由に交わすことが可能であり、医学の常識からは説明できないいわば非科学的な世界である。

誰もが時空間を超えた世界からの情報、すなわち今までの科学的な立場では決して議論されないであろう見えない世界の様子を知ることが出来、その体験を受け入れることで「死の原因」を知ることにも役立てることが可能になるのである。しかも人間関係は現実のまま残っているので、心の絆は生命を失っても変わらない。人と人が深い結びつきを分かち合い経験する事により、科学的な証明は難しくとも生前の人間関係の体験の記憶は、はっきりと意識される。そして見えない世界に存在している魂と容易に触れ合うことが出来るようである。見えない世界を支えているものは愛の力であり心の絆で、人間の心の中でのみ分かち合うことが出来ると思われる。

従来のスピリチュアルなグリーンケアのカウンセラーとして活躍中の共同演者、橋本、勝浦、さらにGCS療法®の初期研究に“モニター”として参加していた宮崎が、よりスピリチュアルな時空を超える感動体験等それぞれのカウンセリング体験例をここに紹介する。

キーワード：グリーンケアサイエンス、癒しの科学、ヒプノセラピー

連絡先：よしだひろこ E-mail: hpsyoshida@gmail.com 〒818-0072 福岡県筑紫野市二日市中央2-4-17-501 電話: 0120-920-810

ワークショップ

命と魂のエネルギー -グリーンケアサイエンス（GCS療法®）の実際 そのII-

よしだひろこ¹、橋本幸雄²、宮崎ちずる³、江田弘子¹、森晴香¹、直井美子¹、勝浦友美⁴

¹HPS心理センター（福岡、日本）、²Miracle グリーンケア（京都、日本）

³ホーリールーム (福岡、日本)、⁴ユーレカスペース (京都、日本)

要旨: 「GCS療法[®]」は従来のグリーフケアとは異なり、セラピストの催眠誘導によりクライアント自身が故人の声を聴き、故人と語り合うことができる療法である。死の原因はもとより、故人が死後に遺した想いや事柄なども生前と変わらぬ感覚で会話することが容易であり、故人のエネルギーを感じながら、時空を超えた光の世界を体験することができる。よしだオリジナルのこの療法を会場で希望者に体験してもらう予定である。

Keywords: 催眠療法、グリーフケア、癒しの科学、死者との交流

注: 会場にて体験希望者を募集します (6名限定、無料)

連絡先: よしだひろこ E-mail: hpsyoshida@gmail.com 〒818-0072 福岡県筑紫野市二日市中央2-4-17-501 電話: 0120-920-810

報告 *SSE-Japan* からのメッセージ

科学探査学会 (SSE); グローバル展開の拡大

Paul E. Cizdziel, Ph.D. ポール チーズジェル, 博士
SSE-Japan 支部長 (横浜、日本)



要旨: 米国に本部がある Society for Scientific Exploration(SSE) 科学的探査学会は、科学の伝統的な境界を越え、主流な科学によって無視されたり、研究が十分になされていない現象の研究を取り上げている専門学会であり、多分野の科学者と学者から構成されている。1982年に設立され、現在、会員数は、専門家のみならず学生会員と無料アカウント会員を含めて増やし、1,000人を超えるまで成長した。Journal of Scientific Exploration (JSE) は、SSEの四半期ごとに出版される査読付き学会誌である。JSEは、事実に対して既存の分野から科学的に間違った説明をされている問題、既存の科学の枠で規定できない新規な現象、そして分野間のつながりに関する哲学的な問題まで、広範囲に興味深いトピックの独創的な研究結果を掲載している。現在、同誌の120以上の特集号がオンラインで無料で読める(オープンアクセス)。

SSEは、*ISLIS*が創立から科学への取り組みを始めて25年を迎えることを祝賀する。我々はまた、*ISLIS*が *Human Potential Science* (人間の潜在能力についての科学) に焦点を当てていることは、SSEで行われている研究の流れと非常に一致していると認識している。最近の2つの例としては、Dean Radin (*ISLIS* 学会誌編集委員でもある)によるオンライン Psi Experiment を記した JSE Winter 2019 の論文、Russel Targ による Stanford での Remote Viewing Operations などがあり、両著者とも超能力研究のオピニオンリーダーとして注目されている。さらに、SSEの現会長ウィリアム・ベングストンは、社会科学から分子生物学までを包含する幅広い視点から、超能力治療現象を科学的に研究する分野を長年に渡ってリードしている。

アメリカの SSE には3つのローカル支部があり、現在は日本にも支部が設立されている。私自身が2019年に設立した SSE-Japan は、アジアにおける SSE に対する認知、協力、支援をさらに拡大するために設立された。昨年、SSE-Japan では関心の高まっている問題に関しローカルイベント(東京)を10回開催しました。さらに我米日の有力な学術機関との間で、遺伝子移植乳がん細胞の成長に及ぼすエネルギー治療活動の治療効果を探るための研究プロジェクトを立ち上げた。

SSE-Japan の支部を通して、私は日本の一般の方々をもっと巻き込み、教育し、SSEと同様のビジョンを支持する他の専門調査グループ(*ISLIS*など)の間の橋渡しをしたいと考えています。太平洋地域全体で人間の潜在的科学についてのアイデアを融合し、進歩させるためのコミュニケーションと協力は、科学的な結びつきを強化し、世界社会に利益をもたらすことができると考えている。

キーワード: SSE, SSE-Japan

問合せ先責任者: ポール チーズジェル, japan@scientificexploration.org / sse.jp.org@gmail.com <https://www.scientificexploration.com>
SSE-Japan 支部長 TEL: 080-2247-1843.